[川崎大師平間寺薬師殿（旧自動車交通安全祈祷殿）]見学レポート

資料　1

（1）　昭和45年12月15日　第119号　川崎大師だより　昭和41年6月4日第3種郵便物認可

川崎大師だより

発行所
川崎市大師町4番48号
大本山川崎大師平間寺
総務課 文書広報室
発行人 草　教運
編集者 滝沢　課
月1回1日発行
定価1部20円

大本山　川崎大師平間寺
新・自動車交通安全祈祷殿
落慶記念臨時特別号

資料 2

落成に寄せて

貫主 高橋隆天

そのはは、めずらしく好晴のすばらしい快晴でした。

中央の大塔から左右の小塔に掲られた万国旗の下、参列のご信徒たちの手から投げられた白・赤・黄・緑・紫の五色の風船は、青空に向かって美しい情景を描きつつ、舞い上って ゆくのでした。万国の相手の中を。

「世界の願い・交通安全」――自りつけられた万国旗は、私共の切実なる願いであります。この願いも

ねんしく、交通災害による被害者、犠牲者は、その数を増すばかりの、悲しい今日の姿なのです。

当山は、ご本尊・厄除弘法大師のご智願であるところの実相を説教し、多くの人々が、平安に生きることが出来るようにと念願は未信仰を求めるとともに、日々、一山あげて祈願をいたしております。

交通安全のご祈願も、また然りであり、去る昭和三十九年十二月に、世のため、大衆のための自動車交通並びに乗員各位の安全祈願の道場として所縁堂を開設し、多くのご信徒に安心立命を与えてまいりました。

激増する交通事故は、歩人もさけたいのは勿論でありますが、自動車の性能は年々改良され、運転技術もまた進歩してきているにもかかわらず、その反面、「走る凶器」ときえいわれるようになり、この発達した近代社会においては、もはや解決し得ないほどの交通事情悪化の現実となっております。

人は、ここにおいて、「祈り」の尊さを知ったのです。

「祈る心」は、み仏に身を全託こめて祈願することであり、そこに、ご本人自身、心の中に平安な心と、正しく生きる心と、さらに、悪を出さない心とが生ぼえてこなければ、真の祈りとは申せないのであります。

この正しい祈りこそ、一家の幸福・安寧に、平和な社会の建設に、そして万民繁栄につながる、唯一の、全世界の人々の願いなのであります。

今日、ここに、ご信徒各位のご信徒を寄きまして、当山に、新しく自動車交通安全祈願殿の建立が完成いたすことが出来ました。落成慶讃の大法要の盛儀に対し、ご同慶に堪えない次第でございます。

新所縁殿は、発願してより二カ年の月日を経ましたが、ご覧いただけますように、雄壮インド風の多宝塔大殿堂であります。中央大塔に大法輪（仏教を象徴するもの）を、左右の小塔それぞれには、宝珠を太祭にて飾られております。まことに雄大にして荘厳な芸術となり、仏教興隆の先明を、ここに見るのであります。

それは、その昔、インドに起った仏教が、お釈迦さまのお悟りにより仏法が定まり、さらに五人のお弟子に、その法を説かれたことにより、仏・法・僧の、所謂「三宝」が成立し、仏教の起源となるのであります。そして多くの人々に帰依三宝を説かれ、広められた仏教は、すなわち、仏教徒で申すところの法輪を転じて、東洋諸国の一念の下、民心の安定、また教化へと大きく展開され、仏教三大宗教の一つへと、発展したのであります。

この大きな意味を持つ大法輪を、中央大塔に高く表現し得ましたのは仏教のもつ偉大性と、広称大願ご誓願の世代衆生の一大信念なのであります。

私は、この深く、崇高な仏教精神による新所縁殿の建立が、多くのご信徒の上に、災厄消除・交通安全・心願成就のご加護を頂けますよう、心をこめて祈願、ご修法いたすものでございます。

新所縁殿の落慶を、ご信徒とともに寿ぎ、ご祝詞に頂る喜びのことばといたします。

資料 3

新・自動車交通安全祈願殿

建設工事とその経過概要

建設工事概要

所在地　川崎市大師町四番四八号　平間寺内

建物　様式　寺院造り銅瓦葺

設計・監督　工学博士　大岡　実
（器）　松樹　弘二

施工　株式会社　大林組

建坪　一階　四八八、四平方メートル（一四八坪）
二階　二三四、六平方メートル（七一坪）
計　延べ七二二、二平方メートル（二一九坪）

仕様　殿高　一階　四メートル
二階　三、五メートル
塔高　中央塔　二八メートル
脇塔　一六、二メートル

外装　セラミックス吹付仕上
内装　木造形上天井及び格天井、床板張

工期　一年六カ月

工費　一億六千万円

延べ人員　約　延べ一二、〇〇〇人

使用資材　鉄材　一七九㎥
生コンクリート　一、五〇〇立方メートル
他にセメント　二、〇〇〇袋
足代等の使用パイプ　延長　三四、三〇八米

諸設備　頂部は地上二八メートル
輪径一、七メートル
重量　約八〇〇キログラム　金箔押
（木彫飾り付）
二基　幅一、七メートル　高さ二メートル

宝珠

建設工事経過概要

昭和四四年

六・一　地鎮工事着工
八・二二　地鎮祭
九・一八　起工式
九・二二　杭打ち工事着工
一一・二六　鉄骨建て方着工
一二・二九　基礎コンクリート及び一階床コンクリート打設完了

昭和四五年

一・二一　一階コンクリート打設
二・一九　二階コンクリート打設
三・九　大小塔コンクリート工事着工
五・一八　塔力輪までのコンクリート打設完了
六・一〇　塔頂部石コンクリート完了
六・一五　上棟式
六・一八　主宮工事着工
六・二五　塔外装化粧コンクリート工事着工
七・一二　内部造作着工
八・一　塔化粧コンクリート工事完了
八・四　化粧鉄鼎、出雲（かつぎ）取付け開始
一〇・八　鐘楼、外構、造園工事着工
一〇・二九　法輪及び宝珠取付け
一一・二一　本尊ご遷座法要
一一・二二　落慶式

資料 4

新自動車交通安全祈禱殿 落慶

り、あらかじめ、ご遷座法要にさきだって、薬師殿をはじめかずかずの仏具が、製作元の京都・田中伊雅仏具店から搬入されました。その扱え付けのために京都から駆けつけた作業員の心遣いも、まことに誠心のこもったものでありました。

この開宮祭、祭典場とも、許未色のもので、全色の飾り金具が一きわその輝きを増して、荘厳味を加えております。

開宮殿と祭典場は、当日と自祭の間い京浜急行電鉄株式会社が、寄基奉納されました。その関係は、新祭礼殿の歴史とともに、ながく記憶されることでありましょう。

記念すべき最後の修行

その日ご遷座の法楽が行われる十一月二十一日、その午後四時のご新殿の修行が、いまからいえば、旧祭礼殿での、記念すべき最後のものでありました。

それを知らずにご祈願に来られたドヲイバーのりたちは、一瞬「あしたきればよかったな？」と見日同音に口惜しがっておられた様子でしたが、心の中では、きっと、こんなふうに考えていたことでしょう。――「いままで、数えきれないほどの信徒が、安心を得てきた、魂のこもった新殿殿。そこで最後のご祈願が受けられるとは実加のきわみだ」と。

本尊ご遷座法要

月明りの宵に、この盛儀

お大師さまご縁日の佳き日にちなみ、ご本尊を、新たに落成した自動車交通安全祈禱殿へおうつし申し上げるご遷座法要が修行されたのは、十一月二十一日。

この日、午後五時、大本坊を進発した行列は、やがて新禱殿に到着しました。そして職衆がそれぞれ席に着きますと、大導師・当山貫首の酒本加持によって、法要がはじめられました。

思えば、粗彩心経にはじまるこの夜の法要は、前にも申し上げましたように、昭和三十八年に建設されてから今日まで、無慮幾百万信徒の交通安全を願してきた祈願における最後の法要でありました。

この法要が済わると、貫首をはじめ出仕の職衆によって、いとも厳粛に、お身祓いの儀がとりおこなわれました。

お身祓いによって清められたご本尊さまは、四名の白丁によって奉持されるお輿に安置され、それに二名の雅楽が供奉し、再び行列を組んで、厳々と新祭礼殿へと向かいました。

行は流にすっかり暮もて、復々と深と

5

4

資料 5

昭和45年11月21日　本尊ご遷座法要
22日　落　慶　式
23日　交通安全大祈禱会

プロローグ

ういういしく、新祈禱殿

新しい自動車祈禱殿の誕生を、ご信徒の方々や、山内のものはもちろん、これに関心を持っている人達は、ながいあいだ、どんなに待ちもうけ、期待していたことでしょう。

林立する何十本という高い鉄の足場を仰ぎ見ながら、新祈禱殿が、いつ、どんな風に出現するのか、正直なところ、一カ月ほど前までは、想定することもできませんでした。

1

2

ところが、ある日、ある時、突如として、中央塔と側塔に、サラサラと四方に掲げられた大注連と宝珠が取り付けられたときは、思わず「素晴らしい！」と歓声の声をあげました。そして、それが一つの合図のように、足場がバルバルとつぎつぎに取りはずされ、生れたばかりの赤児みたいに、ういういしく、しかも、雄壮な姿なすがたで、わたくしたちの目の前に出現したのは、落慶式の行なわれるという日の、わずか四、五日まえのことだったでしょうか。

3

縁え付け作業員のまごころ

十一月十九日と二十日の二日間にわたって、中央塔と側塔に、宝珠と注連を縁え付けた作業員のまごころ

写真説明

1 新祈禱殿落慶ポスターは、関東一円に。（京浜川崎駅にて）

2 交通安全祈願の永い歴史を持つ旧祈禱殿の最後のご祈願を終えて――新祈禱殿の建設がはずむ。

3 落慶行事のはじまる直前まで、仕上げ工事は急ピッチですすむ。

4 ご本尊を安置するお輿は、しずかに新祈禱殿へ――。

5 ご遷座法要のために、飾られるすすき祭礼の列。

資料 6

殿広場に到着しました。それと時を同じくして、ヘリコプターが一機、低音高く飛んできて、広場の真上で、紅白のリボンのついた箱を投下してゆきました。この箱の中には、真言宗智山派管長・第重政建大僧正宛ての祝電からのメッセージが入っておりました。

そんな情景もあったりして、祈禱車の並んでいる広場の中央を通過してきた行列が、祈禱殿正面の供養塔の前に到着しますと、職衆の信徒は向い合って立ち、大導師・眞言の密教加持によって、魂が唱えられ、五色の加持水が注がれました。

祈禱殿の三つの峰の下の部分にそれぞれ金色のくす玉が下げられていましたが、その中央を眞言、向かって右側を川崎市長・金刑氏二女郎氏、左側を設計者大岡実工学博士によって、その紐が引かれますと、五色の紙吹雪が舞い上がり、白鳩の空に映えて、ひときわ美しさをみせました。と同時に、「おめでとう」という歓声に、思わず見上げると、色とりどりの風船がサッサッと先をかがやきながら祝賀の空に舞い上がり、天と色の美しい交響楽を奏で出していました。

厳粛部の厳荘代の四方加持によって、堂内が正厳されると、まず参列者が順次入堂し、つづいて大導師並びに職衆が入堂堂されました。

白布に覆われた御宮殿が、大導師の手によって除幕され、金色まばゆいばかりの御宮殿が参列者の目にうつった瞬間、思わず力強い拍手が湧きあがりました。心から、この事業を祝しての拍手であります。

佐藤は、眞言の西木加行、眞供、眞言による基礎儀礼文の朗読があり、つづいて行なわれた授戒の中を、参列者がつぎつぎとご本尊さまに献花をされました。

交通遺児にも心を寄せて

こうして、第一部の正業が終わると、第二部の式典に入り、当山から、この祈禱殿落成を記念して、川崎交通安全協会並びに全国交通遺児育英会へ、それぞれ寄金を贈呈しました。

10

11

12

13

写真説明

8 ご遺族代表で、遺族表白文を朗読される当山貫首。

7 ご遺族代表に参列した、感慨の当山法類と山内の人々。

8 善信の中に聳える大塔。

9 来賓諸氏、堂に満ち溢れる。

10 一山職衆対介する中、厳粛供養場を開始供養される当山貫首。

11 当山貫首は、基礎儀礼文を朗読されも。

12 川崎駅長助役バス社長・川原道三氏がお祝いのことばを。

13 当山貫首、川崎交通安全協会の代表者に寄金を贈呈する。

資料 7

7

6

わたる月光の下に浮かび出た行列は、ことばでは到底言い尽くせない、まさに壮麗の極みそのものの風情でした。

えもいえぬ法悦

如興が、二十二基の役元器により、そ開らし出される新新鐘殿の正面に到着しますと、原院代の同方加行によって堂内が正厳され、そのあと、ご本尊積女、まばゆいばかりの御宮殿にご遷座申りました。

ご本尊さまとともに遷座された大聖不動明王並びに十二神将御尊仏の奉祀がおわりますと、そこで、いよいよ、この新鐘殿におけるご遷座入仏各種の法要が修されました。

8

御宮殿、並新鐘、並鐘具など、悉くすべてあらたな宝前において、大導師・貫首の清水加持が修されて法要に移り、つづいて貫首によって、ご本尊遷座奏上文が朗読されました。

せりあがった真白いドーム型の天井に張り込まれるかのように、読経の声が高らかに響き、参列者一同、えもいえぬ法悦の一ときにひたりました。

午後二時十分、このご遷座法要は無事終了しましたが、これに参列し得たわたくしたちの感銘は、ただただ一抱きこの夜一の一語に尽きるのではないかと思われました。

本にとまって、ハトが一羽、この盛儀をじっとみつめているようでした。

落慶式

青空に輝える

いまでも、あの日の強い印象と、その感激を忘れることではありません。

秋快晴の日を迎わせるような、すっきりと澄みわたった青空に、くっきりと聳え立つ三つの塔。その北面に、金色まばゆいばかりにかがやく大法輪と宝珠、仏教の塔と鐘を、そのまま、そこに見るような——

舞い上がる五色の紙吹雪

大本坊を発した練行列には、ご相伴の施信、各世代表、宗派関係者も参列しすでに大々で埋めつくされている新鐘殿

9

今院建築の力面で最高の権威、工学博士大岡実先生と、その建築研究所員一同が心血を注いで設計し、株式会社・大林組が、その持てる建築技術のすべてを活かして遂に完成を見るに至った新自動半交流式折鐘殿なのです。

その新折鐘殿の落慶大法要が、十一月二十二日、午後一時から挙行されたのであります。

資料 8

交通安全大祈禱会

交通戦争で苦しむ人々のために

この日、十一月二十三日は、新幕殿落慶を記念しての交通安全大祈禱会を修行し、午前十一時に警察署および官庁関係者、午後一時に民間の交通関係者を招待しました。

川崎市管内六警察署から集まったパトカー、白バイなど数十台、各警察署関係者が正心に祈りをこめるなかで、この交通安全大祈禱会が修行されました。

16

17

大本堂を進発した行列が、堂内に到着して直ちに開式となり、大導師・当山貫首の清水加持によって法華がはじめられました。続いて、経典が読経する貫例のうちに勤修がおこなわれ、道場が厳修されました。

次いで、大導師の交通安全祈願文が朗読されました。そして、懺悔する なかで、大導師をはじめ参列者代表によって献花がおこなわれ、ご本尊さま定前が荘厳されました。その献花が終わると、参列者が順次内陣参拝にうつり、お大師さまのご宝前に、交通安全の祈念をささげました。

交通安全大護摩札とお守を

住内での法要が終わったあと、来体祈禱にうつり、貫首大導師のもとに、来体安全、乗員安全が祈願されましたが、この日は、とくに参列者代表に対し、交通安全大護摩札と交通安全お守が、当山貫首から授与されました。

最後に、原院代が「お大師さまのご加護をいただき、毎日交通安全を念じながら、乗務に尽くされるように」と、挨拶されました。

こうして、法悦に満ちあふれた大祈禱会を最後に、三日間にわたる行事は、壮厳裡に幕引を迎えたのであります。

写真説明

14 真言宗智山派宗務総長よりお祝いのことばを受けられる当山貫首。

15 落慶式のあと、新幕殿はいつまでも埋るく光り輝いていた。

16 交通安全大祈禱会に参列した警察関係者。パトカーと白バイが壮観と並ぶ。

17 交通安全の祈願をこめて、至心に合掌する警察官。

エピローグ

新幕殿落慶大法要並びに諸行事は、こうして、恙なく、しかも盛大に、執り行なわれました。

いままでは、車に建設中の建物であったものが、これで「法の器」としての、たくましいを秤った厳然たる「自動車交通安全祈禱殿」として誕生したのです。

さて、「法の器」であるこの新幕殿に祈る心は、どうなければならないか。

そのことを、当山ご貫首は、本号に掲げられている「落慶に寄せて」の中で、「〈祈る心〉は、み仏に全身全霊こめて祈願することであり、そこに、ご本人自身、心の中に平安な心と、正しく生きる心と、さらに他を苦しまない心とが宿ばえてこなければ、真の祈りとはいえないのでありましょう。」と、仰せになっておられます。

当山といたしましては、厄除法大師のご誓願を体し、この新しい祈禱殿落慶を契機として、さらに、交通安全を熱願し、交通災害のない、明るい社会をとりもどすために、一大精進を決意いたしております。

最後に、この勧機に参列された方々、また、この新幕殿建設のために御助力を賜せられました十方信徒各位に、心から、厚くお礼を申し上げます。

資料 9

ついで、この祈禱殿建設に功労のあった各位に、当山賞状から感謝状が贈られました。これに引続いて、真言宗智山派管長猊下のメッセージが、智山派宗務総長・田中隆尊前正によって朗読・披露され、そのあと、田中宗務総長、神奈川県知事・津田文吉殿、川崎市長・金刺不二太郎殿、全川崎交通安全協議会長・真柴惣太郎殿をはじめとして、交通関係、檀信者代表各位の、心からの祝辞をいただいて、その日の式典のために過去さらに花を添えることができました。

よろこびと感激が満まいて

多くの信徒各位をはじめ、それぞれの関係者の伝授によって建立された新祈禱殿の落慶大法要は、ここに、めでたく、盛儀幕を閉じました。

この大法要が終わったあとでも、この仕合に、自動車のご祈願をうけようとする信徒各位が殺到し、至心に交通安全を祈願する真剣なすがたが見受けられて、この聖業の意義の大きいことを、ますます感じないではおられませんでした。

山内には、この日のよろこびの美雲が漂まいて、感激の絶頂でありました。

夜のとばりが下がった伽藍の中に、三つの塔をもつ祈禱殿は、いつまでも明るく、美しく照らし出されていました。

14

15

祈禱殿落成慶讃法要　表白文

秋って、真言教主大日如来両部界会諸尊聖衆には五尊瓜除弘法大師別して当山勧請創建祖師としては仏縁所但一切三宝の護持に白して言さく

夫れ惟ればこの当山は前に交通事情悪化せる世相に鑑みて、本尊瓜除大師の本誓を仏転し交通安全の願を発してより以降　その効験真に奇瑞を顕わす

依って、日々来り参ずる輪番　検査の信徒衆を呼び許を乗め旅

藍の衆徒足ぶに堪えざるも　幸なるかな　新日動車安通安全祈願建立の気運盛り　且旨熱久しきに内外有縁の信助を得て浄業を興してより一年余り　愛に新祈禱殿の落成を迎え

即ち　御ぎ願る金色輝然たる大法輪を大場に又　来生の願意を成ずる宝珠並びに鳴鐘を天々に配した雄壮美麗なる多宝塔印度風大殿堂これなり

誠にこれ本尊を仰め参って護法諸天の加護と有縁信徒の浄捨施工合々の賜なりと　随喜法悦の至りなり

依って爰に　今月今日の吉辰を占して　大願の供具を調え　小弟身の受戒を正り　一山の承仕を率いて入仏落慶の法儀を興べ　信徒と共に喜びを領ちて　只ちに低頭合掌の礼敬を致すものなり

一方に抵浄水を酒ぎ　人事の進捗を祝えて　老幼全衆せる大伽藍に安着を願い　連綿の冥経を唱じては　大願の慈悲女業ちんと欲うものなり・

粒ぎ願わくば　本尊瓜除弘法大師威力に供して　外には益祥たる交通災難を未然に　内には有縁の浄信を加祐して福海の吉祥を成に勝え

し

重ねてとう

御集忠誠　交通安全　実益興隆

諸願成就　乃至国家　平等利益

昭和四十五年十一月二十二日

大本山川崎大師平間寺貫首

大僧正　隆　天

敬白

資料 10

新自動車祈禱殿落慶に寄せて

本日、ここに、新交通安全祈禱殿の落慶式が挙行されるにあたり、ひとことお祝いのことばを申しあげます。

ご承知のように、現下の交通状勢は、日に日に悪化の一途をたどり、国民総ての願いと努力にもかかわらず、交通事故は益々激増し、本年末には史上最悪の記録も予測されまことに憂慮すべき事態となっております。

この時にあたり、広く人命尊重の願いをこめて、このような立派な新交通安全祈禱殿を建立されましたことは、まことに喜ばしく、関係各位のご努力に対し、深く敬意を表する次第であります。

自動車の目覚ましい普及は、わが国経済の発展と生活文化の向上に大きく貢献しましたが、その反面、交通事故という不幸をもたらしているのでありまして、交通安全には最善をつくす覚悟でありますが、相互いに十分に注意し、この災禍を未然に防止してまいりたいと思います。

当平間寺は、つとに川崎大師の霊場として、全国にその名を知られ、すでに多数の自動車の安全祈願を行なっておられましたが、この新祈禱殿の落成を契機として、今後一層交通安全から人命を守るために、大きな役割を果たされるよう、願ってやみません。

おわりに、新祈禱殿が所期の目的を果たし、多数の人々の交通安全が保持できますよう祈念して、祝辞といたします。

昭和四十五年十一月二十二日

川崎市長　金刺千二太郎

本日の佳き日に、新自動車交通安全祈禱殿落慶式が挙行されるにあたり、一言御祝の言葉を申しあげます。

今般、このお大師さまの境内に、かくも実相らしく立派な交通安全祈願の大殿堂が建立されましたことは、地域社会の人々は勿論のこと、私達交通関係の事業に携わる者にとって、誠にありがたく、ご同慶のいたりでございます。

我が国が、経済大国として発展すると共に、社会的にも、経済的にも、自動車は、有機的活動に、また迅速なる活動に必要不可欠なものとなり、非常な勢いで増加し、更に今後も増加する傾向にあります。

この自動車の急増に対して、道路整備が追従できない実情にあり、道路が輻輳し、自動車本来の利点を発揮し得ない状態や、歩行者の交通道徳の欠如等により交通事故は年々増加の一途をたどって、大きな社会問題となっております。

メッセージ

我が宗門における教化の大殿堂、大本山・川崎大師平間寺に、新しい自動車交通安全祈禱殿が建設され、本日、落慶大法要が挙行されることは、まことに芳出たき限りであり、衷心より慶賀いたします。

今や、わが国は、日毎深化せる交通事情に鑑み、関係機関それぞれ叡智をあつめて、各種の交通安全対策の運動を出開しつつあります。

かかる情勢を背景に、往来繁盛なる祈禱殿において、信徒各位の安心立命を具現する仏教精神をもって、全国民の交通安全を願い、且つ交通災害のない、明るい社会の実現に邁進せんと志ざせるは、殺も貴い聖業というべきであります。

本日の慶讃法要を祝し、メッセージとします。

昭和四十五年十一月二十二日

真言宗智山教管長
大僧正　那須政隆

新祈禱殿落慶の祝辞を述べる川崎市長。

拡大版

古きよきものと
新しきものと

われわれの願望久しかった，交通安全祈願の道場新自動車祈禱殿が落成した。それを眺めるとき，目がしらの熱くなるのをどうしようもない。

当山の自動車交通安全祈願の歴古く仮本堂の時代まで遡る。そしまままでの祈禱殿が誕生したのは、十八年の末である。

近代文明における自動車の発展まや、大衆の生活の中に密着し、必需品とさえなった様相を呈してしかし、その反面、「走る凶器」用捨するところなく、人間を悲惨へと巻きこんでゆく現実は、まころしいかぎりである。

米国のある生命保険会社の発表ば、走行キロ当たりの日本の死亡米国の三倍という数字が出ているも、米国の車所有台数は、千人当本の二倍から二倍半もあるという日本はさらに分が悪くなる見当で

そこには、安心が全くない。物の栄華も、このように、人間とし心がないならば、ある意味では、悲劇といわねばなるまい。ここに法・僧の三宝によって安心の得ら場こそ、われわれの新祈禱殿建立であったのである。

ところで、どのような祈禱殿がれるべきであるか、ということがあった。

「信は荘厳から起こる」という し、古くから寺院建築として考え いる形から逸脱することは、はた いけないことなのであろうか。ま

御礼

このたびの新祈禱殿の落慶式にあたり、ご鄭重な祝電を多数頂戴いたしました。ここに、芳名をかかげ、深謝申しあげます。（順不同）

真言宗智山派管長・那須政隆大僧正猊下、株式会社大林組社長・大林芳郎殿、衆議院議員・岡崎英次郎殿西新井大師総持寺殿、高野山・清浄心院殿、全日本仏教会殿、智積院内智山派宗務庁部長一同殿、神奈川県知事・津田文吾殿、神奈川県会議員柏木進一殿、檀徒総代・石渡信太郎殿、六大新報社殿、その他数十通。

安全祈願の歴史は、で遡る。そして、い生したのは、昭和三

自動車の発展は、い中に密着し、すでに様相を呈している。「走る凶器」として、人間を悲惨な運命、現実は、まことに恐る。

険会社の発表によれの日本の死亡率は、数字が出ている。しか日数は、千人当たり日もあるというから、恐くなる見当である。か全くない。物質文明に、人間としての安ある意味では、まさにるまい。ここに、仏・て安心の得られる道の新祈禱殿建立の願望

ような祈禱殿が建立さということが問題で

起こる」という。しか建築として考えられてることは、はたして、であろうか。まず、この点が、最大の問題であった。

精神のうえでは、あくまで古きよきものを土台として、それでいて、現代に通ずる新しい形、それをもとめつづけた。

大本堂、不動堂、祈禱殿、信徒会館とすべて一環した調和を保つことを基本線として、その設計を大岡実工学博士に依頼した。博士は、いろいろと熟考された結果、ついに、インド寺院風な設計の構想を発表された。

三つの塔――それは、ブダガヤの大塔から着想され、かつ仏・法・僧を表徴しているという。それぞれの塔に、ご本尊弘法大師、不動明王、十六善神をまつり大塔の上に法輪を置く、これまさに、遍照金剛である。

ここに、在来の寺院建築とは異なった多塔型インド寺院風な祈禱殿が誕生したのである。そして、大岡博士のご苦心のほか、副設計監督の松浦弘二技師をはじめ、工事責任者・大林組の宇賀神所長、その他この工事に携わったすべての人々が後世に残るよい仕事をと、自己の能力を最大限に発揮したことを、ここに特筆しなければならない。

新自動車祈禱殿は、日本唯一のインド風寺院建築であるとともに、ここに、心静かに瞑するとき、人々は、お大師さまと同行二人、安心の功徳を得られるものと、信じて憚らないのである。

平間寺総務　**馬本克美**

資料 11

交通戦争といわれる今日、自動車を運転する全ての者が、交通安全に留意しており、特に私達運輸事業は、社会的使命を果たすべく、「安全」、「正確」、「迅速」、「快適」な旅客輸送を念頭におき、日夜努力いたしております。

交通安全対策が最も重要とされるこの時期に、この交通安全祈願の完成をみたことは、社会的に意義深いものと感銘いたしております次第であります。

私達は、お大師さまのご本願であります民衆救済、交通安全のご加護を蒙り、尊い人命を護り、日々の生活をよりよく生きたいと念ずるものであります。

このありがたく、そして、おめでたい新自動車交通安全祈願塔落慶式にあたり心から感謝とお礼を申し上げ、祝辞といたします。

昭和四十五年十一月二十二日

川崎駅見附用バス株式会社
取締役社長　川原道正

記念号編集を終えて

紙面の制限やいろいろな制約があって苦心しましたが、お蔭さまでお届けできることを幸せに思います。写真は、とくに写真家三上佳隆、小川孝子両氏に依頼しました。労作に感謝します。

古きよきものと新しきものと

われわれの願望久しかった、交通安全祈願の道場新自動車祈願塔が落成した。それを眺めるとき、目がしらの熱くなるのをどうしようもない。

当山の自動車交通安全祈願の歴史は、古く仮本堂の時代まで遡る。そして、いままでの祈願殿が誕生したのは、昭和三十八年の末である。

近代文明における自動車の発展は、いまや、大衆の生活の中に浸透し、すでに必需品ときたった機材を保っている。しかし、その反面、「走る凶器」として用途するところなく、人間を悲惨な運命へと追きこんでゆく現実は、まことに恐ろしいかぎりである。

米国のある生命保険会社の発表によれば、交通事故による日本の死亡率は、米国の三倍という数字が出ている。しかも、米国の車所有数は、千人当たり日本の二倍から二倍半もあるというから、日本はさらに分が悪くなる筈である。

そこには、安心が全くない。物質文明の栄華も、このように、人間としての安心がない以ならば、ある意味では、まさに悲劇といわねばなるまい。ここに、仏・法・僧の三宝によって安心の得られる道場こそ、われわれの新祈願殿建立の願望であったのである。

ところで、どのような祈願殿が建立されるべきであるか、ということが問題であった。

「信は百聞から起こる」という。しかし、古くから寺院建築として考えられている形から逸脱することは、はたして、いけないことなのであろうか。まず、この点が、最大の問題であった。

精神のうえでは、あくまで古きよきものを土台として、それでいて、現代に通ずる新しい形、それをもとめつづけた。

大本堂、不動堂、祈願殿、信徒会館とすべて一貫した調和を保つことを基本構想として、その設計を大岡実工学博士に依頼した。博士は、いろいろと熟考された結果、ついに、インド寺院風な設計の構想を発表された。

「三つの塔――それは、ツダガヤの大塔から着想され、かつ仏・法・僧を表徴しているという。それぞれの塔に、ご本尊弘法大師、不動明王、十方善神をまつり大塔の上に法輪を置く、これまさに、運慶金剛である。

ここに、玄関の寺院建築とは異なった多層型インド寺院風な祈願殿が誕生したのである。そして、大岡博士のご苦心のほか、国鉄計画課の松浦弘二技師をはじめ、工事責任者・大林組の宇賀神所長、その他この工事に携わる、たすべての人々が後世に残るよい仕事を、自己の能力を最大限に発揮したことを、ここに特筆しなければならない。

新自動車祈願殿は、日本唯一のインド風寺院建築であるとともに、ここに、心静かに祈するとき、人々は、お大師さまと同行二人、安心の恩徳を得られるものと、信じて憚らないのである。

平間寺総代　熊本克美

御礼

このたびの新祈願殿の落慶式にあたり、ご懇意な祝電を多数頂いたしました。ここに、芳名をかかげ、深謝申しあげます。（順不同）

真言宗智山派管長・弘法大師大僧正猊下、株式会社人林組社長・大林芳郎殿、衆議院議員・岡崎英次郎殿、西新井大師総持寺殿、浅野山・博善心院殿、全日本仏教会殿、智積院内智山派宗務庁部長・田殿、神奈川県知事・津田文吾殿、神奈川県会議員・柱木進一郎、横浜総代・石渡信太郎殿、六大新報社殿、その他数十通。

資料 12

新自動車祈禱殿の構想

工学博士　大岡　実（談）

――まず、設計のご苦心など……どのくらいの日時がかかりましたか。

☆二、三ヵ月はかかったのではないでしょうか。なかでも、でき上がったものをごらんになれば、おわかりになると思いますが、あの中央塔の正面をまとめるのにたいへん苦心しました。

現在の大本堂が純日本風な建築ですし、四十九年の大開帳を目標に着工されることになっている信徒会館が日本建築と近代建築の折衷というようなものになるので、それでは、新自動車祈禱殿はどうするかということで平間寺当局とも、何回も何回も話し合いをいたしました。

はじめは、私、やはり日本の寺院建築を考えてみたのですが、それには、どうして屋根をつけなければならない。でなかなか大へんなのです。そ一応、大本堂、信徒会館、祈禱の三つの建築物の調和を考えて、いっそインド寺院風な設計どうだろう……まあ、そういう平間寺当局にこちらの構想をお ところ、賛同してくださったわ

――塔のある寺院は、日本にはないでしょうか。また、あの というのは、なにか意味が……

☆そう、丸い屋根のかかったりますが、塔形式のものはあり

いちがいに、塔といっても、重塔などは、塔婆をかたどった といわれているのに反して、イダガヤにある大塔――あれは、下に、ご本尊のお釈迦さまがお ある厳然たる仏堂なんですね。私は、はじめにすぐ、ブダガヤ頭にえがいたわけなんです。

ブダガヤのは、中央に高い塔いて、四隅に一つずつ小さい塔す。私も、あの形を採ろうかとですが、祈禱殿の奥行がそう広で、五つ全部は、とてもはいりそれで、大本堂に安置されてい思いあたって、三塔の形をとるめました。ビィルディングなん実用的な面から、自然に形がきまうものですけれども、こうい

も大きな経費の点それならば禱殿……こみたうえ計にしたらうことで、お話しした わけです。にないので の三つの塔。

た寺院はありません。日本の五た建築物だインドのブあの塔の祀りしてそれで、の大塔を

塔が立って塔がありまと思ったの広くないのりません。る三像にることにきんかですとこまってしうものは

形をとらえることがむずかしい。そこに一番苦心するわけです。いま申しました三つの塔のバランス、高さの点でも、ちょっと高ければヒョロ長いものになりますし、低ければ、また、つぶれたような形になってしまう。その間のプロポーションが、こういう建築では、生命観といいますか、いちばんのきめ手になる中心をなすところで、そこだけでも、何回設計図を書きなおしたかしれません。その結果が、ご覧になればわかりますが、たいへんおちついた、ととのった塔の感じが出せたわけです。そのほか、全般的にいっても、平間寺さんにお願いしてつくっていただいた模型によって、中央の入口を拡げたり、正面の廂（ひさし）の出なんかも、だいぶ修正いたしました。

――この祈禱殿の建築は、インド寺院風といってよろしいのでしょうか。

☆ええ、もう、純粋のインド様式といって差支えないと思います。

大体、あるまとまった様式をもつものは、まとめるときに、一つの雰囲気でまとめませんと、中途半端な、妙なものが出来上がってしまうものです。それに、コンクリート工事なので、構造も、副設計監督をしている技師の松浦弘二君と二人で、やり易いように設計したつもりです。

――色や光の問題も、むずかしいと思いますが……。

☆色の方は、まだ宿題にしています。というのは、まあ一般的にいえば、真っ白なのが清楚でよいと考えられるでしょうが、この辺は公害がひどいので、じきに黒くよごれてしまいますから……。じつは、京都のある寺院なんかに見られるいわゆる聚楽色（じゅらくいろ）にしたらどうか、それとも、明るい色、セピアといいますか、うすい黄色味のかかった茶色なんかもどうかな、と思っているんです。それから光の問題については、投光器は各すみずみにもたくさんつくことになっていますが、遠いところから照明する投光器も必要でしょうね。それも相当遠いところから照らして全景を浮き出させるようにすれば、夜でも高速道路あたりからも、はっきり見えますし……もっとも大切なのは、拝殿の照明でしょうね。これは、ことさら特別な趣向をこらすと、却ってごちゃごちゃになるおそれがありますし、第一、祈禱殿のことですから、精神が集中できるように考えないといけません。むしろ、実際的な面を考えて、八メートルも高いところにあるドームにやわらかい感じが出るように、また、全体としては、下から見て、高いドームが明るく広がっている感じが出せるようなことをねらっています。また、音の反響の面も考え、音響がはねかえってこないように、その点、音を吸収するように床もカーペットにして、あまり堅い感じにしないように注意していきます。

――十一月には、新祈禱殿もいよいよ

資料 13

完成ということになりますが……。

☆大いに楽しみにしております。工事は大林組ですが、日本では、いままで見たこともないような建物をつくるので、大いにやりがいがあるといって、その点非常に苦心もし、努力を惜しまずにやっているようです。

また、自分で設計した私が、こんなことをいっては変ですが、こんど、この祈禱殿が完成されたあかつきは、川崎大師平間寺に、もう一つ名物が出現することになるのではないでしょうか。

祈禱殿の完成にあたって、上棟式前に、大岡博士からおうかがいした談話を再録させていただきました。

後世に残す仕事を

ちょっとしたきっかけから、川崎大師の新自動車祈禱殿の彫刻の部分を受け持たせていただくようになって、もうかれこれ足掛け四ヵ月。雪が降ったりして、粘土で作った原型が凍って割れはしまいかと、指先の冷たさより、その方が気がかりで、ビニールやむしろを二重三重かけた、あの寒かった二月から三月初の頃を思い出します。

普通の住宅の、たとえば欄間のような彫刻でしたら、どんなに手のこんだものでも、時間さえかければ何とか出来るのですが、新祈禱殿の場合のような彫刻はそう簡単なわけにはゆきません。だいい、寺社の建築物というものは、早い話が、その前に立っただけで、おのずから頭が下がり、合掌したくなるような、そういう雰囲気も醸し出さなければなりません。ですから、江戸時代の寺院のそれに見るような、彫刻だけがとび出してしまっているようなものでもいけません。あくまで、その建築物に付随したものとして、要所要所に、たくまずして、ごく自然におさまるようなものであることが必要です。

お寺といえば、誰もが、仏さまと美しくせり上がっていく瓦屋根を思い浮かべますが、このたび建築される祈禱殿は、在来の寺院建築とはまったく異なったイメージを持っていますので、それだけに、設計者や工事責任者の苦心には、たいへんなものがあります。ともかく、いまは、この工事に携わる一人一人が、全体の調和を頭に入れて、後世に残すよい仕事を目標として努力するより道はないのです。

私は、ときどき仏教文化が花咲いた京都や奈良の寺院を見てまわりますが、その中で、とくに私を引きつけるのは東大寺の三月堂です。お堂にはいって、じっと手を合わせていると、心が静まり、満たされた気持にさせられます。

心の中まで読み通してしまうような不空羂索観音のきびしい、理知的なまなざし、日光月光両菩薩のかざりけのない全身からは、温かい慈悲心があふれ出ているように感じられて、私には、ただの偶像とは、どうしても思えません。雑欲の世界に生きねばならない私たちに対するわけへだてのない愛、無知な者をも仏道の世界へ導き入れるほどの不思議な崇高さが、この三月堂にあふれているのは、なぜなのでしょうか。これは、ことばや形であらわすことのできない悟りの世界への糸口を、何とかして後世のものたちに見出ださせてやりたいという、天平時代の工人の祈りが、三月堂の仏像をはじめ、建築物の隅々にまで浸みわたっているからだと思います。

一千年も以前の、こうした人々の祈りが、遠くはなれた現代の私たちの心の中に信仰の灯をあかあかとかき立てているように、祈禱殿の建築のために働いている私達も、いま持っている智恵と力を最高に生かして、後に続いてくる人々のために、たとえどんなに小さな足がかりでもよい、つけておきたいのです。それが、大きな力のままに、私達を生かしている永遠のものへの、ささやかな感謝のしるしでもあるのです。

いま新祈禱殿の工事にたずさわっている多くの人々の中には、あるいは、〈お大師さまは、いつの時代に、どういうはたらきをされた方であるか〉知らない人がいるかもしれません。それでも、「おれたちの手で、川崎大師の自動車祈禱殿をりっぱに完成させるのだ」という大きな誇りをもって懸命に働いている人たちに、私は頭が下がります。また事実、十一月の落慶を、祈りをこめて期待しておられる川崎大師当局、信徒各位の熱意とこの建築に精進する目立たない人々の努力によってこそ、新祈禱殿は、いま一歩一歩完成へと近づきつつあるのです。

大林組・川崎大師工事事務所

岩松捷次

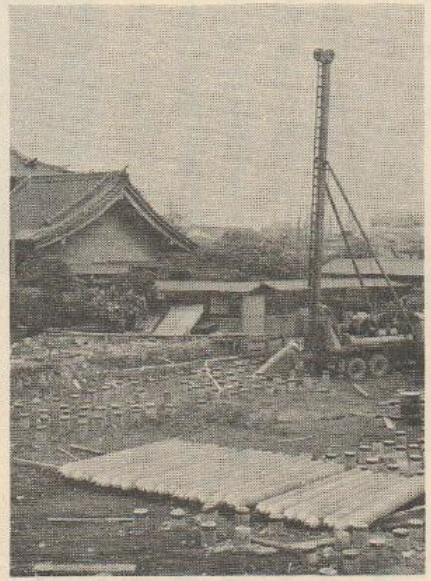
これは、新自動車祈禱殿の落慶を契機として、新たに製作したステッカーの図案。三原色のほか紫紺を配した鮮かな美しい意匠です。

資料 14

川崎大師・新祈禱殿

建設のあゆみ

◀準備工事―ブルトーザー、ダンプカーで整地作業が行われた。（44・6）



▶コンクリート杭打工事―コンクリート杭がつぎつぎに打ち込まれる。その数九〇四本。（44・9）

◀ 地鎮祭—暑い夏の陽のなかで、地神に供養される当山貫首。（44・8・21）

◀ 起工式—工事の無魔完遂を祈願して、ご貫首表白文を朗読される。（44・9・18）

◀ 一階床のコンクリート打設工事（44・12）

◀ 二階までのコンクリート打設完了。漸く形態に整えをみせる。（45・2）

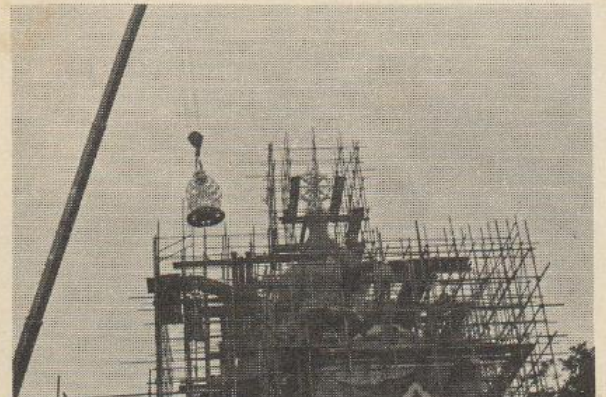
▲ 鉄骨組立て工事—中央塔には、殊に堅硬な鉄骨が使用された。（44・11）

資料 15

▶工事現場を詳さに視察されるご貫首。（45・5）

▶法輪の取付け作業―その輪径一・七メートル、重量約八〇〇キロ。（45・10）

▶中央塔頂蓮台のコンクリート打設（45・6



▲ **宝珠も取付ける**—新祈禱殿の全容ぐっと引き立つ。

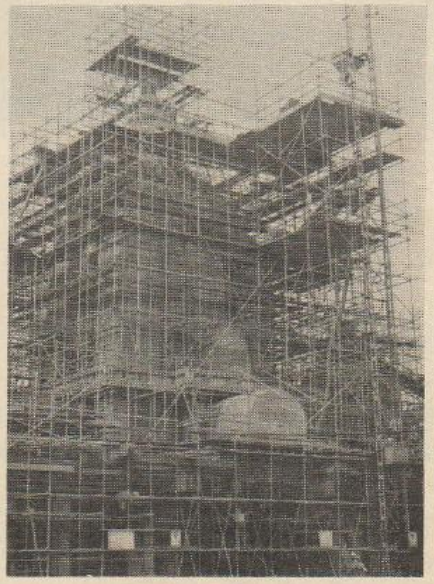
(45・10)

▲ **仕上げ作業急ピッチ**—落慶式を二，三日あとに控えて。

(45・11)

▲ **上棟式**—式典には，招待者，工事関係者も多数参列した。

(45・6・15)



◀ **工事順調に**—いよいよ外装工事に取りかかる。

(45・6)

資料 16

大法輪と宝珠

あたらしい祖師殿の三つの塔の先端には、金色に輝く大法輪と宝珠（水煙付き）があります。この大法輪と宝珠について、簡単に述べてみましょう。

大法輪

如来（ほとけ）の説法は、わたくし達衆生の煩悩（まよい）を断ち除き、惑いや障碍（さわり）を破滅、すなわち打ち砕く大きな徳を具え持っております。この大きな徳、教説（おしえ）を転法輪といいます。

このことは、あたかも、転輪聖王という仏の所有する宝の一つである輪宝が、法車の撃ち鳴らす音に従行し、転々として衆敵を打ち破る徳を持っているのとにちなんだものであります。

真言密教＝お大師さまの教えでも、如来（ほとけ）の教えのことを法輪といい、この如来の教えを説くこと、転輪を転ず――転法輪といいます。

このたび、新自動車交通安全祈願殿の中央大塔の上に掲げられた大法輪は、如来＝お大師さま＝の教えを象徴するものであります。

わたくし達は、この正しい教えの加護をいただき、人間の煩悩によって生ずる苦悩を解脱し、広く如来の真実の世界のなかに、大きく、力強く生きていくための祈りが欲しいと思います。

宝珠（水煙付き）

もとは梵語、真言陀尼（しんだまに）ということばで、「しんだ」は八如意〈「まに」は八宝珠〉と訳される。正しくは如意宝珠（にょいほうしゅ）というべきだと思われますが、宝珠、如意宝、如意珠、如意摩尼、摩尼宝珠などともいわれます。

如意宝珠は、八百万の意（こころ）の欲するが如く、諸定を用（よ）ちず宝の珠〉ということですが、これは、仏菩薩――お大師さまの功績は、わたくし達衆生の願いに応じて、その願意、心願を満足成就し、更には一切の衆生を救済、利益せずにはおかない、ということを象徴したものです。

正信を護持し、如来＝お大師さまを念するものは、常に、なにものにもかえがたい決定、すなわち、ご加護をいただけるものです。

なお、宝珠の上の水滴（すいえん）は「宝珠の功徳を表わす徳」を形どったものであります。

新自動車祈願殿の中央、左右の各塔の頂上などに、三鈷杵を十字に組み合せた「羯磨（かつま）」が配されています。

この羯磨について少し述べますと、これは、梵語「かルマ」から出た語で、「八かつま」、「こんま」、「きそちま」ともいいます。

仏さまが、本来具えている作業賢、〈衆生の作業、所作を成就、成就する智恵〉を表現したもので、三鈷杵を十字に組み合わせた形をしています。三鈷杵は、つ、すなわち十二あることから、流転する十二因縁を断滅して、涅槃の十二因縁とする意味もあります。

衆生の作業、所作を成就するということは、とりもなおさず、お大師さまのご誓願でもあります。衆生の心願、祈願を成就満足させることです。

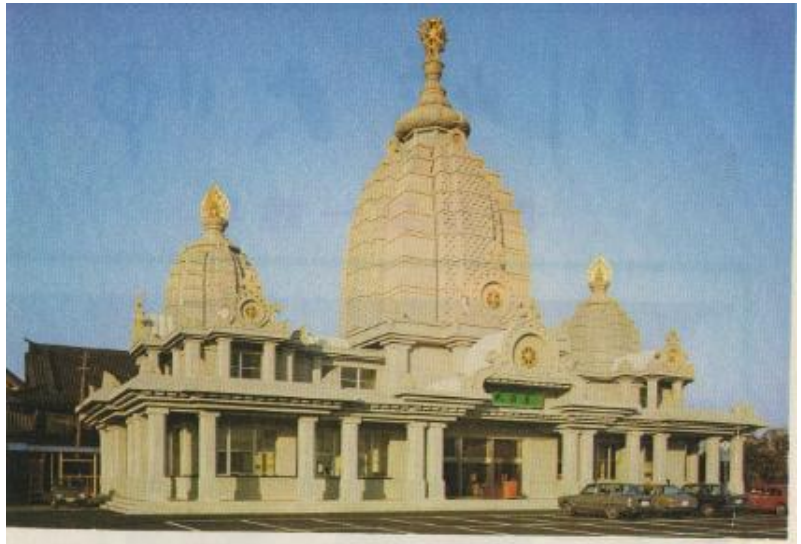
祈願殿の正面には、お大師さまご真影の一大絵画「一大絵巻」という額縁を掲げました。

これは、仏＝お大師さまがわたくし達衆生のために慈悲、慈愛を垂れ、一切の苦悩、心願が成就するように、という願いの表われに他ならないのであります。

新自動車祈願殿

落慶のポスター

資料 17



自動車交通安全祈祷殿

おがむ心が　あなたを守る

交通安全　川崎大師

建坪　一、二階延べ七二三・三平方メートル（二一九坪）

塔高　中央塔　二八メートル

脇塔　一六・二メートル

工期　一年六カ月

建設費　一億六千万円（昭和四十五年現在）

法輪　輪径一・七メートル、重量約八〇〇キログラム、金箔押

宝珠　二基幅一・七メートル、高さ二・〇メートル（水煙飾り付）

建築様式　多塔型印度風社寺建築

設計監督　工学博士　大岡　実

（副）　松浦　弘二

施工者　株式会社　大林組

資料 18

資料 19-1

大本山 川崎大師平間寺

自動車交通安全祈禱殿

建設工事概要

昭和45年11月22日

落慶式

大本山 川崎大師平間寺

資料 19-2

建設工事概要

所在地	川崎市大師町4番48号　平間寺内
建物	様式　多塔型印度風社寺建築
	設計監督　工学博士　大岡　実　（副）松浦弘二
施工	株式会社　大林組
建坪	1階　488,4 平方メートル（148坪）
	2階　234,9 平方メートル（71坪）
	計　延べ 723,3 平方メートル（219坪）
仕様	階高　1階　4 メートル
	2階　3,5メートル
	塔高　中央塔　28 メートル
	脇塔 16,2メートル
	外装　セラスキン吹付け仕上
	内装　木造折上丸型天井及び格天井，床絨毯
工期	1年6カ月
工費	1億 6千万円
就労人員	約　延べ 12,000人
使用資材	鉄材　179トン
	生コンクリート　1,500立方メートル
	他に　セメント 2,000袋
	足代等の使用パイプ　延長　34,308メートル
法輪	頂部は地上28メートル　輪径 1,7メートル
	重量　約 800キログラム　金箔押
宝珠（水煙飾り付）	2基　幅1,7メートル　高さ2メートル

建設工事経過概要

昭和44.	6.	1	準備工事着工
	8.	21	地鎮祭
	9.	18	起工式
	9.	22	杭打ち工事着工
	11.	26	鉄骨建て方着工
	12.	29	基礎コンクリート及び1階床コンクリート打設完了
45.	1.	31	1階コンクリート打設
	2.	19	2階コンクリート打設
	3.	9	大小塔コンクリート工事着工
	5.	18	塔台座までのコンクリート打設完了
	6.	10	塔頂連台コンクリート完了
	6.	15	上棟式
	6.	18	左官工事着工
	6.	25	塔外装化粧コンクリート工事着工
	7.	12	内部造作着工
	8.	1	塔化粧コンクリート工事完了
	8.	4	化粧破風，瓔珞（かつら）取付け開始
	10.	8	舗装，外構，造園工事着工
	10.	29	法輪及び宝珠取付け
	11.	21	本尊ご遷座法要
	11.	22	落慶式

資料 20

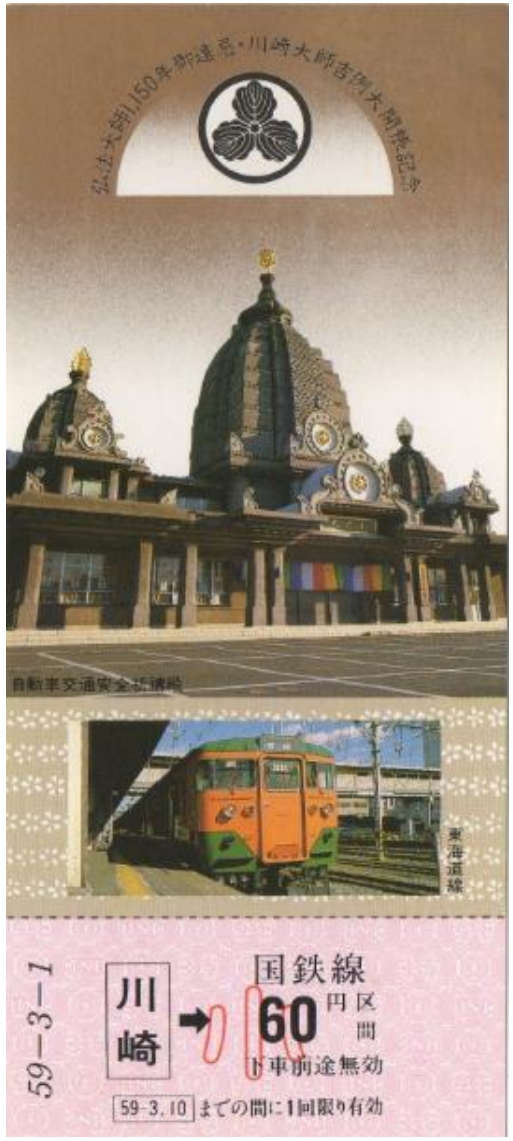
模型

資料 21

資料 22

資料 23

資料 24



自動車交通安全祈禱殿

自動車交通、乗員の安全をお祈りするところとして昭和38年12月に開設され、現在の祈禱殿は、同45年11月に建立されました。

多塔型インド風社寺建築で、中央塔にそびえる"大法輪"は、仏教のもつ偉大性と弘法大師ご誓願の庶民救済の一大信念が象徴されています。

鉄骨鉄筋コンクリート造　高さ38m　建坪488.4㎡

② № 4372

川崎駅発行

資料 25

資料 26

資料 27

資料 28

資料 29

地鎮祭にて/松浦弘二（中央）

資料　30

節分会にて（左手が松浦弘二）

資料 31

現寸場にて/貫首(右)、馬本総務(左)、松浦弘二(中央)

資料 32

資料　33

左から馬本総務、松浦弘二、貫首、宇賀神所長

資料　34

左から貫首、松浦弘二、馬本総務、宇賀神所長

資料　35

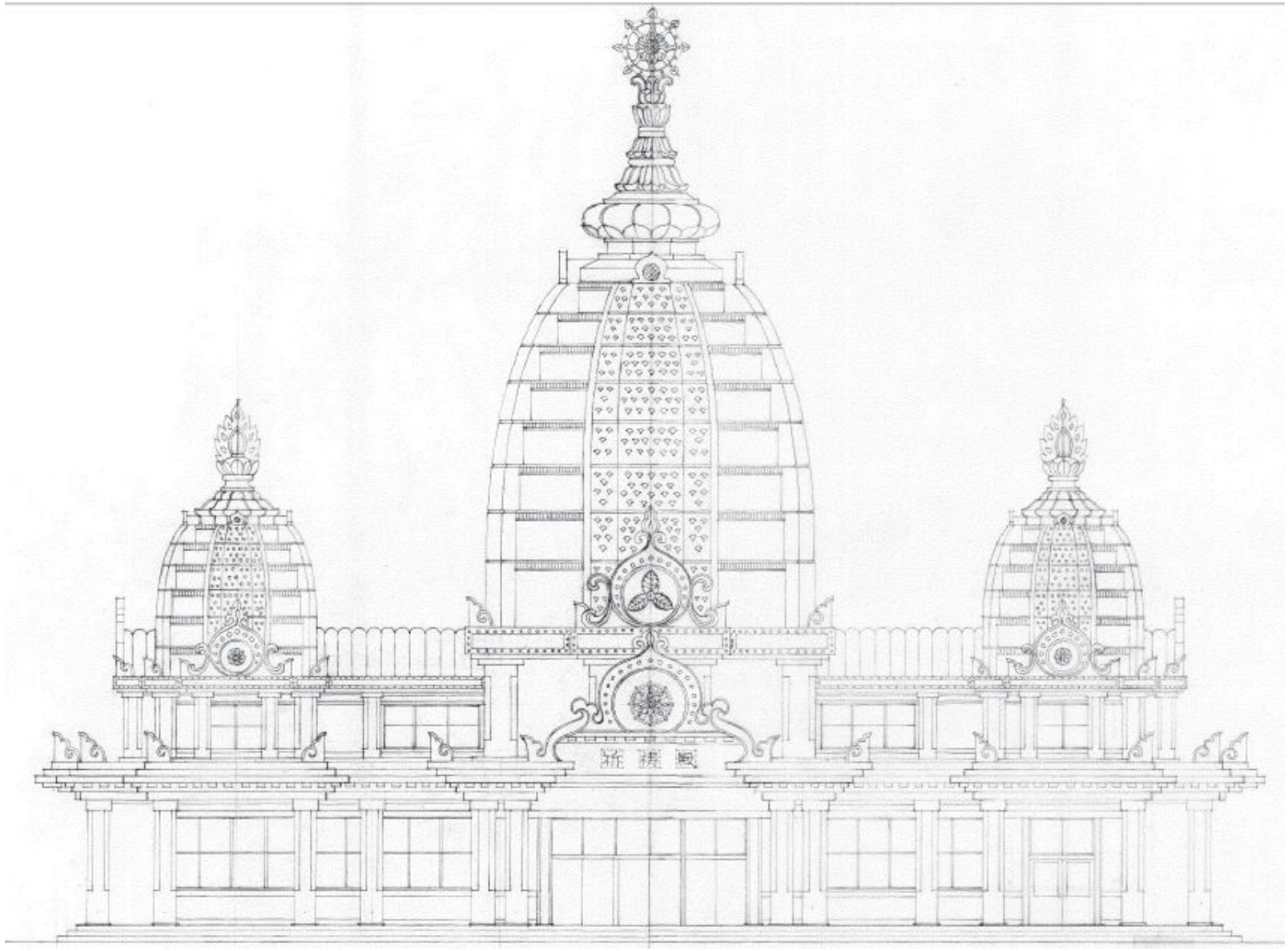
左から貫首、松浦弘二、馬本総務、宇賀神所長

資料 36

左から宇賀神所長、貫首、松浦弘二

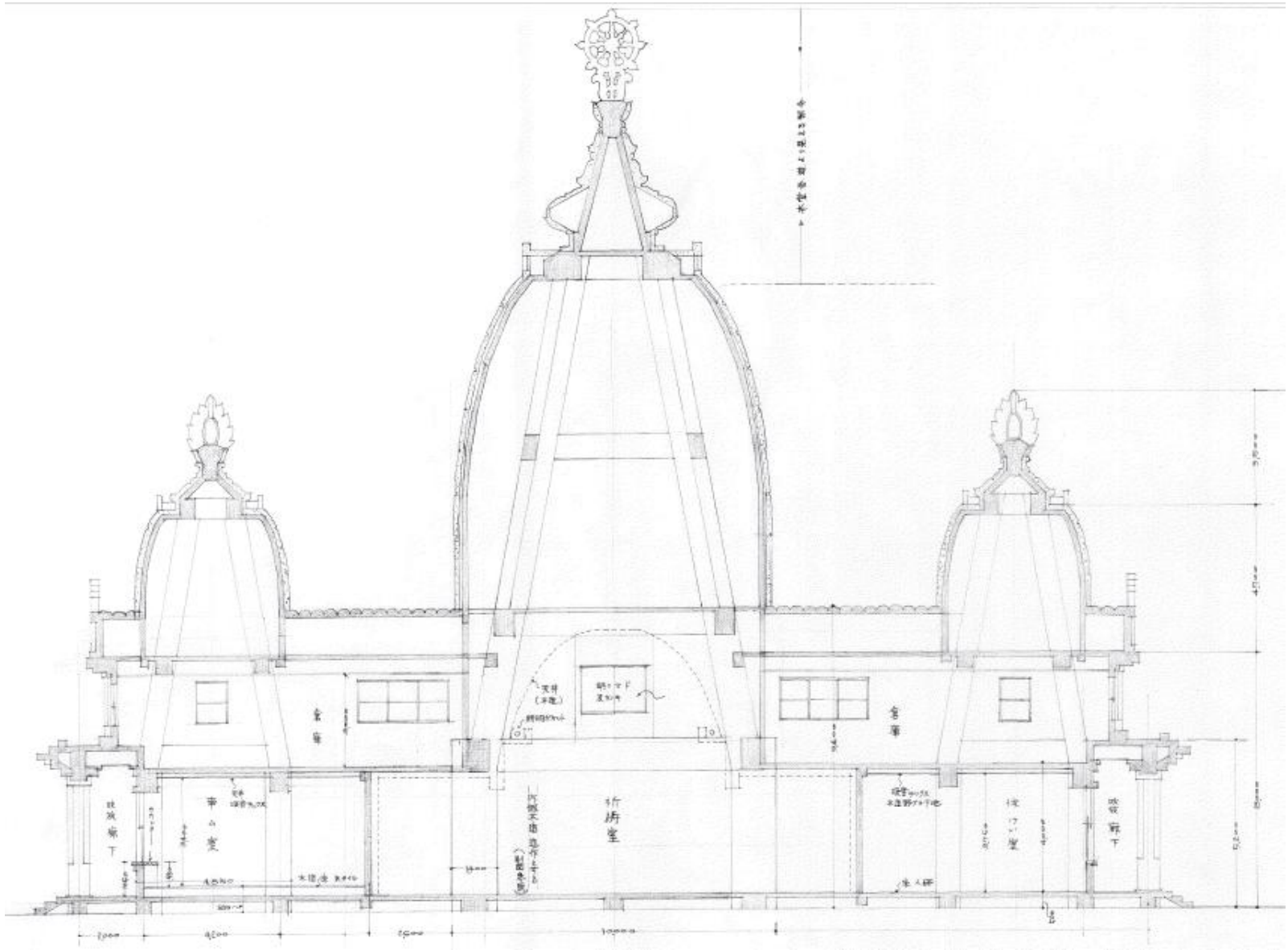
資料 37　　法輪の揚重作業

薬師殿
休憩所

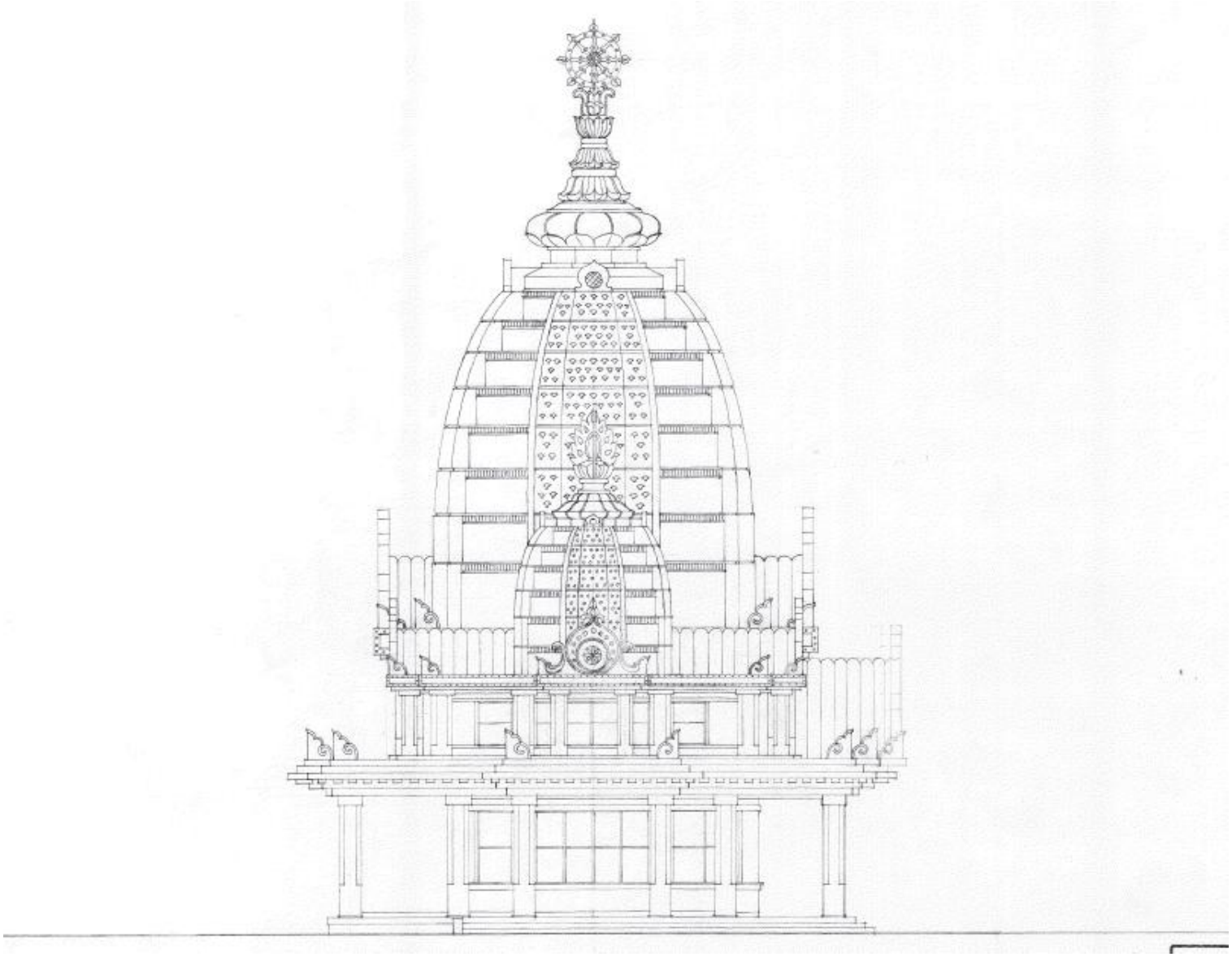

國禮旌

薬師殿

薬師殿
薬師殿

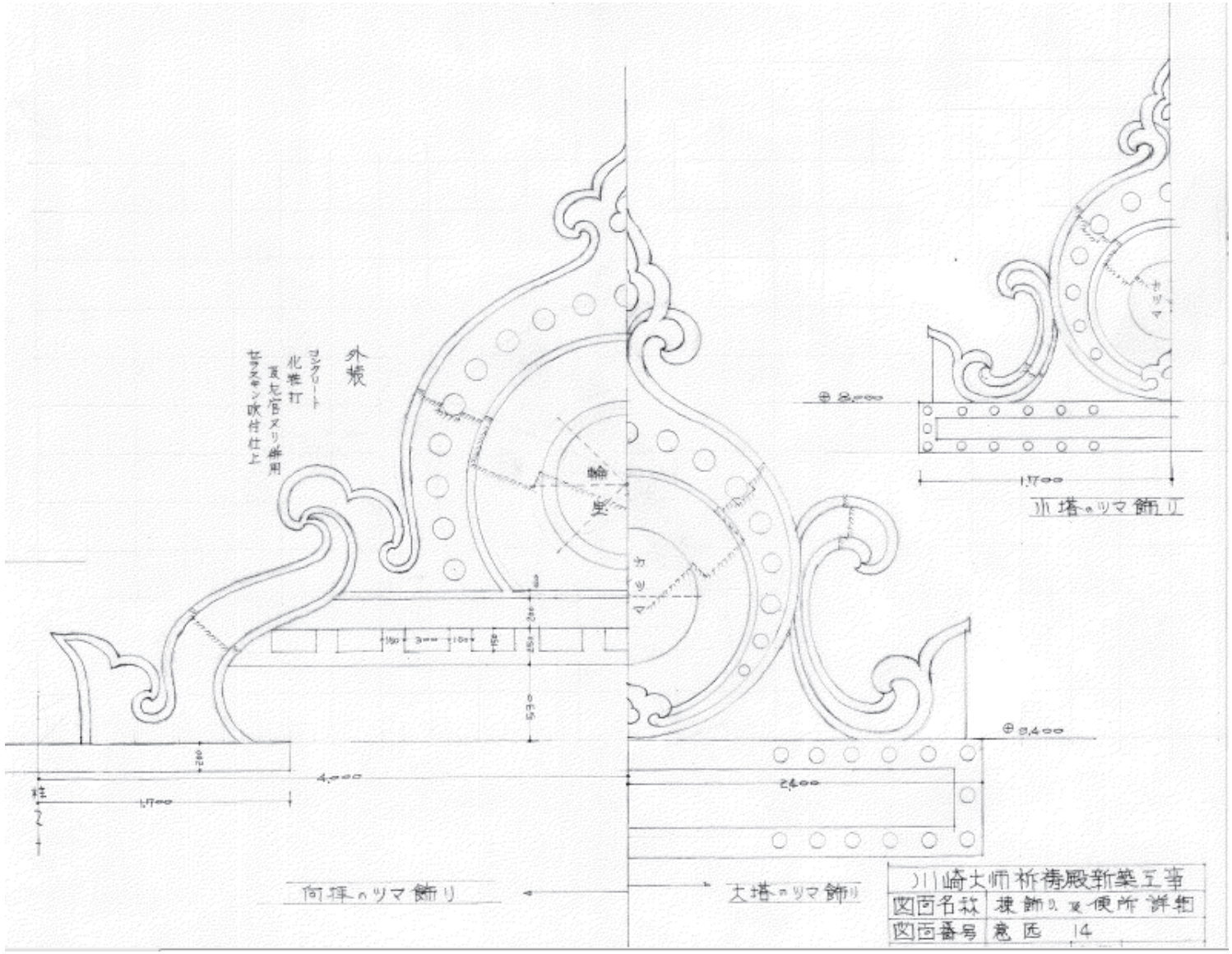


彩色
仏画
写仏
薬師殿

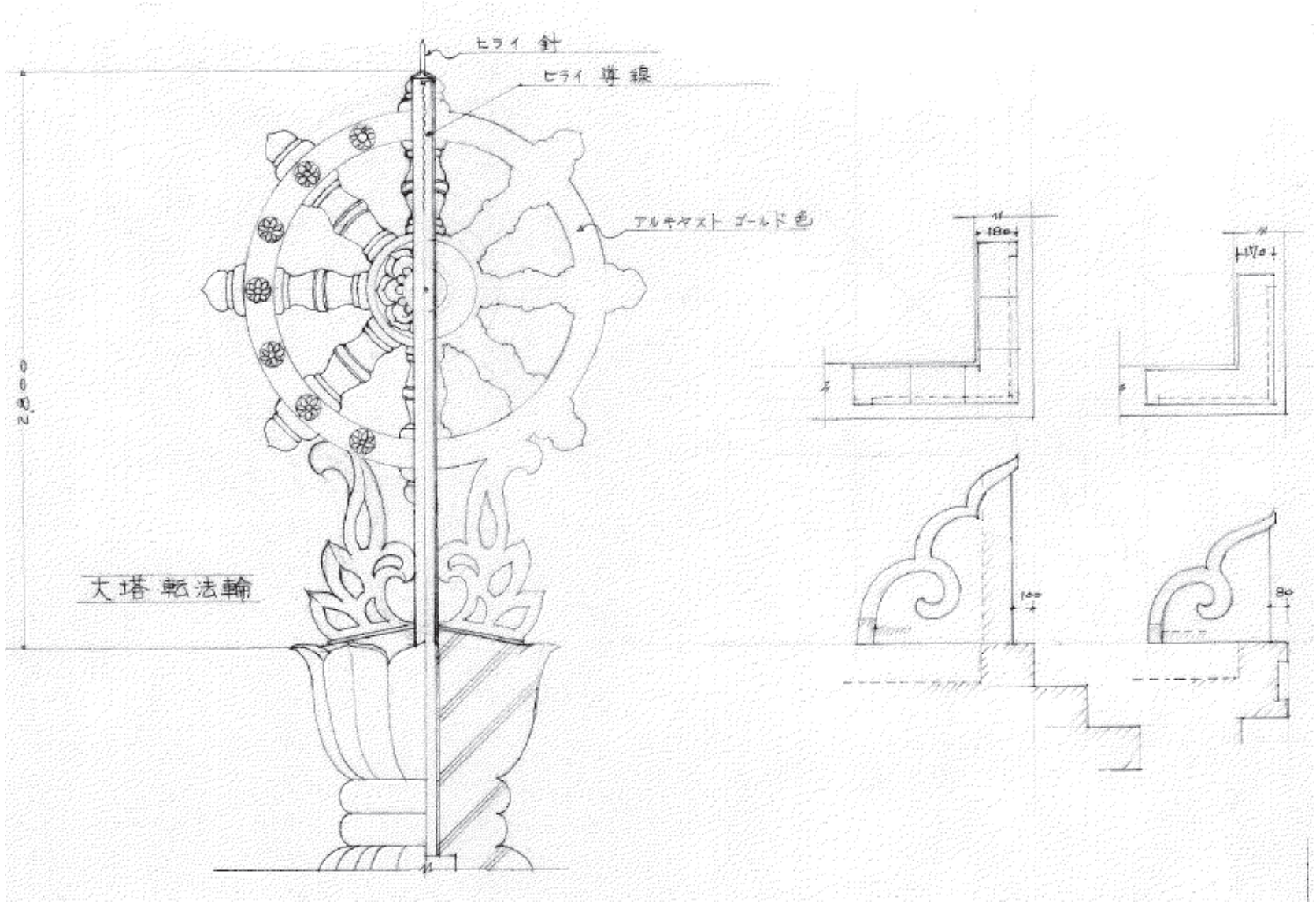


藥師殿

藥師殿



川崎大師祈祷殿新築工事	
図面名称	棟飾り及便所詳細
図面番号	意匠 14


ヒライ 針
ヒライ 導線
アルキダスト ゴールド色
2000
大塔 転法輪
180
170
100
80

19.薬師殿

薬師殿は、当山開創880年の記念事業として平成20年(2008)11月1日に開設。堂内には薬師瑠璃光如来尊像、薬師瑠璃光如来を信仰する人々を守る武神である十二神将が奉安されています。また、御本尊薬師瑠璃光如来のご分身・なで薬師が奉祀され、撫でることにより身体健全、病気平癒が祈念できます。

堂内では参拝された折に、写経や彩色仏画(仏さまのぬりえ)に参加できます。

年月	西暦	工事名	所在地	工事期間	助手	構造設計	施工	構造種別
昭和45	1970	川崎大師 自動車交通安全祈祷殿	神奈川県川崎市川崎区大師町4-48	昭和44.08～45.12	松浦弘二	松本曄	大林組	SRC造